

子どもたちへ支援を閉ざさないために、  
もう一手のお力添えをお願いいたします。

KOTOMO 基金へ、岡山の子どもたちへ気持ちを寄せてくださり、本当にありがとうございます。  
いただきましたご支援により、KOTOMO 基金ではこれまでの 1 年 5 カ月で 870 件の支援を実現することができました。孤立する親子や家庭に 682 回の訪問支援を行い、緊急避難をするシェルターに入られた親子を 32 回支援し、復帰のための居場所となるスペースへ 74 回来られる分を支えることができました。この仕組みがなければ、この 870 件分の支援は実現できず、報告を受けている子ども、親子に支援が届かなかったことを思うと怖くなるような状況です。また、それだけのことがこの岡山で起きていることを実感します。

新型コロナウイルスがもたらしたものは多くありますが、人と人の距離を隔て、個々の家庭から出ることを制限したことにより孤立を高めたことも大きな害であったと感じます。特に、コロナ以前でも他人に相談しにくい悩みを抱えている家庭や家庭という中で起きていることに閉じ込められていた人には、より厚く大きな見えない壁ができています。

誰も日々には他人に相談できない悩みや苦しさを抱え、特には社会からの拒絶や非難を感じることもあるかと思います。僕自身、学生時代や働きだしてから何度かそうした孤独な気持ちを感じたことがありますが、まるで世界に自分だけが拒絶されているように感じてしまうものだと思います。人に会わなければ会わないほど追い込まれていく気持ち。その時におせっかいを焼いてくれる友達や親がいて僕は助かりましたが、そうした話せる友人や同僚や家族が誰もいない。相談できる相手がない方もおられます。

シェルターに親子で逃げる事が出来たある子は一か月、寝るたびに虐待を受けた悪夢にうなされていきました。一か月たってやっと「もう怖い夢を見なくなったよ」と言ったそうです。また別の子は、お母さんを気遣い「お母さんを助けてくれてありがとうございます」と支援者に言いました。また車で逃げてどうすることもできなく車中泊をしていた子は「久しぶりに家族全員お布団で寝れた」と言いました。また訪問支援をしている先にはリストカットがやめられない子、精神的にしんどくて起き上がれない子もいます。ネグレクトやヤングケアラー状態になっている子もいます。これは海外や遠くの大都会ではなく、この岡山県内の各地で起きています。

物価高騰や経済不安の状況がまたこうした家庭に大きな影響を与えています。年末の寒さがさらに厳しさを増す中、より支援の件数がどんどん増えてきています。その増加スピードに追い付いていくことができず力不足ながらそれを支える基金のお金がもうすぐ足りなくなってしまう状況となっております。

もう一步のお力添えをいただき、子ども達を取り残さない、見放さないために、ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

 KOTOMO こととも基金 事務局

特定非営利活動法人岡山 NPO センター 代表理事

石原達也